

## Google、Gemini 3 Pro搭載のAI Modeを130以上の国と地域に拡大

Google は、Gemini 3 が稼働する AI Mode を 約 120 の国と地域に拡大した

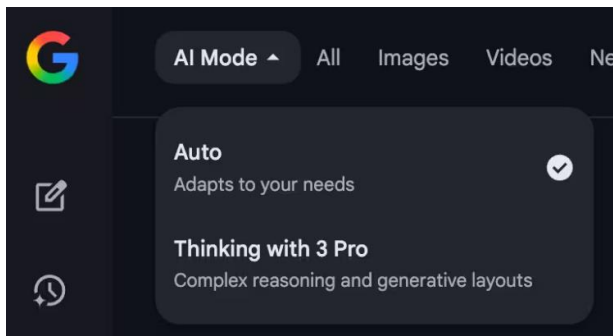
Google は、Gemini 3 が稼働する AI Mode を [約 120 の国と地域に拡大](#)しました。

Google AI Pro および Ultra の加入者が利用できます。

[2025 年 11 月 18 日\(太平洋時間\)](#)にリリースされた [Gemini 3](#) は米国の英語クエリの AI Mode だけに採用されていました。

### モード選択メニューに Gemini 3

ドロップダウンメニューから、AI Mode が使用する LLM のモデルを選択できます。



2 つの選択肢があります。

- Auto
- Thinking with 3 Pro

「Auto」はクエリの内容に応じて、高速な Gemini と Gemini 3 Pro を自動選択します。

複雑な推論を必要としない場合は高速なモデルを、必要とする場合は最新モデルの Gemini 3 を使って回答を生成します。

「Thinking with 3 Pro」は明示的に Gemini 3 を使わせます。

ただし、このモデルでは回答の生成に時間がかかります。

## Google、Gemini 3 Pro搭載のAI Modeを130以上の国と地域に拡大

Google は、Gemini 3 が稼働する AI Mode を 約 120 の国と地域に拡大した

### 日本語でも Gemini 3 Pro

公式アナウンスでは、英語の国と地域とありますが、これは「英語のクエリ」ということではなく「英語が使われている国・地域」ということのようにです。

言語設定 (UI) を英語にすれば、日本語のクエリでも Gemini 3 Pro の AI Mode を利用できました。

表示の一部は英語ですが、回答は日本語で返ってきます。

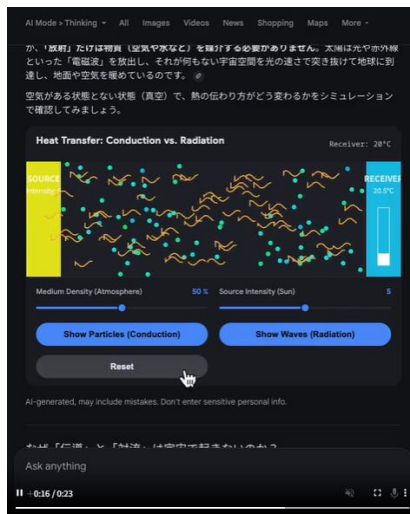
こちらの URL からアクセスしてください。

VPN は不要です。

<https://www.google.com/search?hl=en&udm=50>

※Google AI Pro / Ultra のユーザーのみ。Workspace アカウントは利用できない

日本語であっても、AI Mode with Gemini 3 のウリである、インタラクティブなツールを生成できます。



「宇宙には空気がないのに、どうして太陽の熱が地球に伝わるのか？」という質問に対して、詳細な説明とともに、大気中の粒子の密度と太陽からの放射熱の強さを調節して、熱の伝わり具合をシミュレーションするツールも同時に生成しています(明示的に依頼していない！)。

## Google、Gemini 3 Pro搭載のAI Modeを130以上の国と地域に拡大

Google は、Gemini 3 が稼働する AI Mode を 約 120 の国と地域に拡大した

### Nano Banana も対象国を拡大

最新の生成画像モデルである [Nano Banana Pro](#) も、英語対応の AI Mode で利用できる国を拡大しています。

AI Mode から Nano Banana Pro を利用できるのも AI Pro および Ultra の加入者です。



情報を知りたい場面では僕は最近は AI Mode をよく使うようになっていきます。

Gemini 3 の採用でより賢くなり、AI Mode を利用する頻度がさらに増えそうです。

## Google、AI OverviewからAI Modeへシームレスに遷移するテストをモバイル検索で開始

AI Overview から直接、AI Mode へ移動するモバイル検索結果のテストを Google はグローバルで開始した

AI Overview から直接、AI Mode へ移動するモバイル検索結果のテストを Google はグローバルで開始しました。

### AIO から AIM へのシームレスな移動

Google 検索プロダクト VP の Robby Stein(ロビー・スタイン)氏がテストの内容を [X でアナウンス](#)しています。



本日より、モバイルの検索結果ページからシームレスに AI Mode へと深く進める新しい方法を、グローバルでテスト開始します。

私たちが目指す検索の姿に、これでさらに近づきます。それは、「聞きたいことを、長くても複雑でも、ただそのまま聞けばよい。そうすれば、必要なものが正確に見つかる」というものです。質問を“どこで”、“どうやって”聞くべきかを考える必要はありません。

つまり、今後も有益な出発点として AI Overview が表示される一方で、同じ場所から AI Mode で会話型のフォローアップ質問を続けて行えるようになります。

必要なときはスナップショットのように簡潔に、深掘りしたいときはより深い対話へと進める——一つにつながったシームレスな体験です。

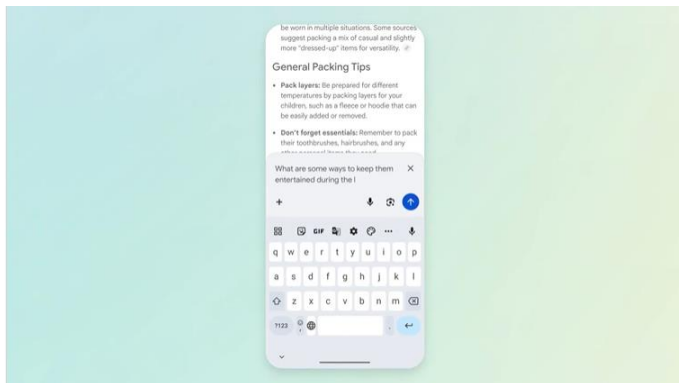
今回のテストについて、皆さんの声を聞けるのを楽しみにしています。

## Google、AI OverviewからAI Modeへシームレスに遷移するテストをモバイル検索で開始

AI Overview から直接、AI Mode へ移動するモバイル検索結果のテストを Google はグローバルで開始した

この投稿からは、どんなふうに振る舞うのかイメージがイマイチつかないかもしれません。  
次のような流れになります。

1. 通常のウェブ検索結果に出た AI Overview の「Show more(もっと見る)」をタップする
2. AI Overview による概要の続きをその場で表示するのではなく、AI Mode に移動して詳細を提供する
3. 必要に応じてフォローアップ質問できる



AI Overview と AI Mode は、現状では分離しています。  
独立した機能です。

これが、「AI Overview => AI Mode」へと継ぎ目なく繋がるように連携させたのがこのテストです。

実際には [10 月くらいからテスト](#)が始まっていたようです。

グローバルとのことなので、日本でも体験している人がいるかもしれません。

モバイル検索限定の機能なので、自分のスマホでどうなっているか確かめてみてください。

ちなみに僕は体験できていません。



AIO から AIM へのシームレスな切り替わりは遷移方法としては自然に感じなくもありません。

もっとも、AIM の利用をなんとかして増やしたいという Google の思惑が絡んでいるようにも思えます。

## 米Google検索ボックスからファイル/画像をアップロードしてAI Modeを実行する

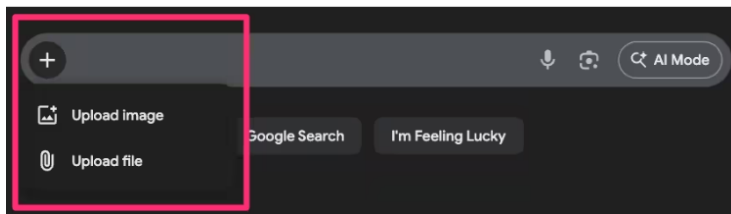
米 Google の検索ボックスから画像や PDF をアップロードして AI Mode に処理させることができるようになった

米 Google の検索ボックスから画像や PDF をアップロードして AI Mode に処理させることができるようになりました。

### + ボタンでアップロード → AI Mode 実行

アップロード用の + (プラス) ボタンが検索ボックスの先頭に設置されました。

画像とファイルをアップロードできます。



サポートしている画像フォーマットは、おそらく [Google 画像検索がサポートしているもの](#)と同じだと思います。

⚠️ ずき補足: [Google レンズを使ったアップロード画像の検索](#)ではなく、Google 画像検索がサポートするファイル形式。Google レンズからのアップロードは AVIF をサポートしていないが、AI Mode アップロードは AVIF をサポートしている

ファイルアップロードは PDF 限定のようです。

Gemini アプリがサポートするテキストファイルや音声ファイルはアップロードできません。

[AI Mode には以前からファイルアップロード機能](#)がありましたが、通常のウェブ検索のトップページからファイルをアップロードして、AI Mode を実行できるようになったというのが新しい機能です。

画像をアップロードして、Enter キーをクリックするとウェブ検索ではなく、AI Mode が実行されます。もちろん、AI Mode ボタンを明示できにクリックしても構いませんが、ファイルをアップロードしていなければ通常どおりウェブ検索が実行されます。

アップロードした状態だと、AI Mode に自動的に(強制的に)切り替わるというのが注目点です。

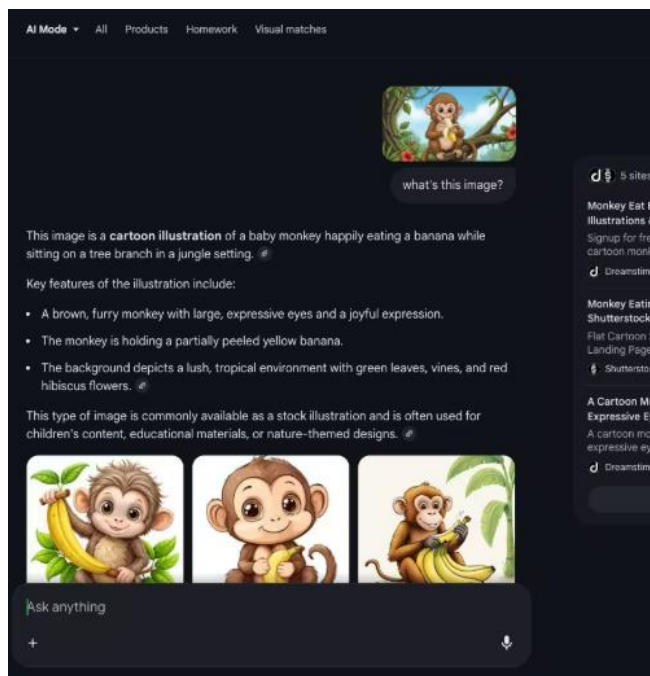
## 米Google検索ボックスからファイル/画像をアップロードしてAI Modeを実行する

米 Google の検索ボックスから画像や PDF をアップロードして AI Mode に処理させることができるようになった

画像をアップロードして検索実行しました。



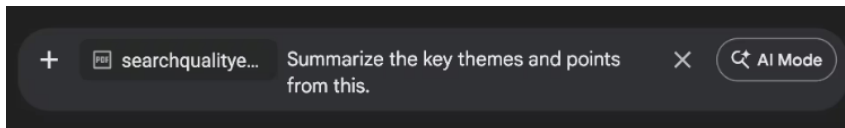
AI Mode が回答します。



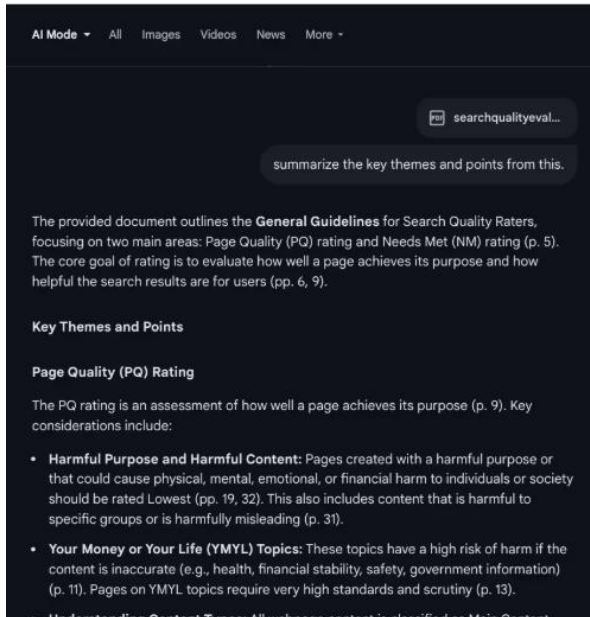
## 米Google検索ボックスからファイル/画像をアップロードしてAI Modeを実行する

米 Google の検索ボックスから画像や PDF をアップロードして AI Mode に処理させることができるようになった

PDF をアップロードして検索実行しました。



AI Mode が回答します。



昨日の記事で紹介した、[AI Overview からの AI Mode へのシームレスな遷移](#)もそうですが、AI Mode への導線を Google はとにかく増やしているように感じます。

なお、検索トップページからの AI Mode 用アップロード機能を確認できたのは米 Google の PC 検索だけです。モバイル検索にはボタンは付いていませんでした。日本の Google にもボタンは追加されていません。

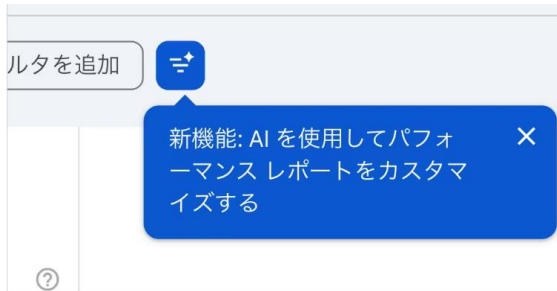
[H/T] [Khushal Bherwani](#)



## Google Search ConsoleにAI分析機能が導入される。自然言語でパフォーマンスレポートを自動設定

Search Console に、自然言語で希望する分析内容を記述するだけで、パフォーマンス レポートのフィルタ、指標、比較を自動設定できる実験的な AI 機能が導入された

Google Search Console に、自然言語で希望する分析内容を記述するだけで、パフォーマンス レポートのフィルタ、指標、比較を自動設定できる実験的な [AI 機能が導入](#)されました。



### AI 機能でできること

検索結果のパフォーマンスレポートにアクセスすると、フィルタメニューに AI 機能のボタンが目立つメッセージ付きで設置されています。

選択すると「AI を活用した構成」のためのサイドパネルが開きます。



## Google Search ConsoleにAI分析機能が導入される。自然言語でパフォーマンスレポートを自動設定

Search Console に、自然言語で希望する分析内容を記述するだけで、パフォーマンス レポートのフィルタ、指標、比較を自動設定できる実験的な AI 機能が導入された

AI 機能では、次のような操作を自然言語で指示できます。

- **フィルタの適用:** クエリ、ページ、国、デバイス、検索での見え方、または日付範囲でデータを絞り込む
  - **比較の設定:** カスタム日付範囲など、手動設定なしで複雑な比較を構成する
  - **指標の選択:** 質問内容に応じて、クリック数、表示回数、平均 CTR、平均掲載順位という 4 つの利用可能な指標の中から表示するものを選択する
- 例として挙げられている次のプロンプトを実行させました。

先月と比較してトラフィックはどうなっているか？

推奨される設定を提案してきます。



「適用」ボタンをクリックすると、提案した推奨設定でパフォーマンスレポートを自動で構成してくれます。



## Google Search ConsoleにAI分析機能が導入される。自然言語でパフォーマンスレポートを自動設定

Search Console に、自然言語で希望する分析内容を記述するだけで、パフォーマンス レポートのフィルタ、指標、比較を自動設定できる実験的な AI 機能が導入された

AI による自動分析にはたとえば、次のような利用が考えられます。

- 対象を絞ったフィルタリング:「過去 6 か月間で、“スポーツ” という語を含むモバイル検索のクエリを表示して。」
- 複雑な比較:「今期の “/blog” を含むページのトラフィックを昨年と同じ四半期と比較して。」
- 指標の選択:「過去 28 日間における、スペインでのクエリの平均 CTR と平均掲載順位を表示して。」
- 特定コンテンツの分析:「“google” という語を含むページのクリック数を表示して。」

レポートを手動で設定する手間を省くことで分析に時間を費やせる点が AI 機能の利点です。

### 展開状況と制限事項

Search Console の AI 機能の現状でのリリース状況と制限事項をまとめます。

- 限られた一部のサイトでのみ利用可能
- 「検索結果」のパフォーマンス レポートにのみ適用。Discover と Google ニュースのレポートは未実装
- AI が入力内容を誤解する可能性があるため、設定されたフィルタの確認が推奨される
- テーブルのソートやデータのエクスポートといった操作は不可

まだ一部のユーザーにしかリリースされていませんが、使えるようになっていたら幸運です。

試してください。

[ヘルプ記事](#)も公開されてるので機能の詳細はそちらで確認できます(この記事を書いている時点では英語のみ)。

## 現代のSEOは量より質、低品質1000ページ削除で検索トラフィック爆上げ事例【海外&国内SEO情報ウォッチ】

Web担当者Forum の連載コーナー「海外&国内SEO情報ウォッチ」を更新。現代の SEO でトラフィックを集めるには、何が大切なのか？ リンク？ メンション？ コンテンツ？ 「低品質ページを大量削除」して検索トラフィックを伸ばした事例を紹介する。

[Web担当者Forum](#) の連載コラム、「[海外&国内SEO情報ウォッチ](#)」を更新しました。

今週のピックアップはこちらです。

- ・ 現代のSEOは量より質、低品質1000ページ削除で検索トラフィック爆上げ事例



ほかにも、ウェブサイト運営や SEO に役立つ、次のような情報を取り上げました。

- ・ 行き過ぎたレイジーロードはUXを悪化させる
- ・ ウィキペディアがモバイル専用URLをついに廃止、PCサイトと共通URLに
- ・ クラウドフレアの大規模障害は、検索ランキングにダメージを与えたのか？
- ・ グーグル検索の利用者数は減っていない！ 大手新聞社の誤報に惑わされるな
- ・ LLM向けのMarkdownやJSONでのコンテンツ提供は効果があるのか？
- ・ 最先端「Gemini 3」がグーグルAIモードで利用可能に
- ・ 低品質AIコンテンツを人間が作り直せば、グーグルはきちんと評価してくれるか？
- ・ ただ乗りは許さない！ 大手パブリッシャーが実践する厳格なAIボット選別戦略
- ・ GBPの投稿に2つの新機能：スケジュールと複数投稿

こちらからどうぞ。

- ・ [現代のSEOは量より質、低品質1000ページ削除で検索トラフィック爆上げ事例【SEO情報まとめ】](#)

## AIが書き換えたDiscoverの見出しをGoogleテスト中、しかし問題のある書き換えに批判あり

Google は現在、Discover で、パブリッシャーによるオリジナルの見出しを AI が生成したバージョンに置き換えるという限定的な実験を行っている。

Google は現在、Discover で、パブリッシャーによるオリジナルの見出しを AI が生成したバージョンに置き換えるという限定的な実験を行っています。

ところが、これらの自動的に書き換えられた見出しは、頻繁に誤解を招くものであったり、事実と異なっていたり、意味不明であったりすると批判も出ています。

### 実験的な機能

[The Verge](#) によると、Google は、トピックをより理解しやすくすることを理論上の目的として、元の記事見出しを AI 生成テキストに置き換える「一部の Discover ユーザーを対象とした小規模な UI 実験」を実施していることを認めました。

### 問題のある書き換え

しかし、この Discover の見出し書き換えには多くの問題が発生しているようです。

- **事実と異なる見出し:** 価格が公表されていないことを明記した記事に対して「価格が判明」とするなど、事実と異なる見出しを生成する。
  - **誤解を招くクリックバイト:** しばしばニュアンスを排除し、特定の限定的な話を誤解を招く広範な主張に変換してしまう。たとえば、ある小売店一店舗での売上に関するレポートが「AMD 製 GPU が Nvidia を上回る」と書き換えられた。
  - **意味不明な言い回し:** AI が生成した見出しの中には、「Schedule 1 farming backup」や「AI tag debate heats」のように、支離滅裂であったり言語的に拙いものが存在する。
- 不適切な書き換えもさることながら、パブリッシャー自身で作成した見出しを許可なく書き換えること自体にも問題があるとの指摘も出ています。

### 実験の一時停止？

The Verge が報じた数日後に、書き換えられた Discover の見出しは元に戻ったとのこと。

一時的かもしれませんが Google は実験を停止したようです。

検索結果のタイトルリンクも Google が自動的に書き換えることがあります。

しかし、これは基本的には h タグやアンカーテキストなどページ上に存在するテキストから取得されます(それでも、おかしい書き換えになることはあるけれど)。

一方で、Discover の場合は、AI が見出しを独自に生成するという点で異なります。

もし書き換え実験が再開された場合、たとえ精度が改善されていたとしても、Discover フィードでのクリック率を上げるために入念に練られたタイトルを AI に書き換えられてしまう可能性は残されています。